

【別冊資料1：単元「コミュニティデザインと私たちの未来のまち」の指導展開】

表1 小学校第6学年社会科大単元「コミュニティデザインと私たちの未来のまち」の単元構成（社会科編：全12時間）

次数	学習パート	教師の主発問	子どもに獲得させたい知識	認識対象・事例
第一次 (1時間) 竜王町の現在	A: 社会から 教室(学校) へのつながり	○竜王町のことを、より詳しく学ぼう。 ◇では、これからの竜王町は、誰がどのよう に作っていかばいいのだろうか。	・竜王町はこの先、「消滅する」と言われている。 ・竜王町を消滅させないために、役場は「‘ひと’育ち みんなで煌く 交流の郷」というキャッチフレーズでま ちづくりプロジェクトに取り組んでいる。	此処・現在の 事例 (竜王町の 町づくり)
第二次 (6時間) 多様なまち づくりのあり 方①	B: 子どもと 学習とのつ ながり	○ドラグーン町はどんな町か。 ○町長さんが、町のために考えたことは何 だろう。 ○新たに町長がしたことは何だろう。 ◎それぞれの町づくりにキャッチフレーズ をつけよう。	・人口2000人の町で、自然豊か。自動車で20分走 らないと駅には行けない。 ・もっと、人が住む場所を作ろう。そうすれば、そこに 住む住民同士のつながりが作れると考えた。 ・住民に「どんな公園にしてほしいか」を聞き取り、「ド ラ公園」(公共施設)を作った。 ・1つ目は「行政による」コミュニティデザイン、2つ目 は「行政が住民の意見を聞く」コミュニティデザイン。	他所・過去の 事例 (竜王町の 町づくり)
多様なまち づくりのあり 方②	C: 子ども同 士のつなが り	◎どうして、行政パートナー制度を始める 必要があったのだろう。 ○それでは、志木市の取り組みに「ぴった りあう」キャッチフレーズをつけよう。	・行政と住民とが一緒に町づくりに取り組むようになり、 住民の願いを行政の人も理解するため。 ・行政の取り組みから生まれたコミュニティデザイン、 市長が願ったコミュニティデザイン	他所・過去の 事例 (埼玉県志 木市)
多様なまち づくりのあり 方③		◎どうして、おいしがーうれしがキャンペ ーンを始める必要があったのだろう。 ○それでは、滋賀県の取り組みに「ぴった りあう」キャッチフレーズをつけよう。	・滋賀県産の食材がおいしいことをアピールするため。 ・地域食材PR コミュニティデザイン、県庁と県民の協力 コミュニティデザイン。	他所・過去の 事例 (滋賀県)
道徳「プロフェッショナルから学ぶ」①：パン職人(限界をこえる勇氣)(1時間) …今までにない学習スタイルにとまどい、少し「できない」と限界を感じつつあった子どもたちに、その限界をこえることで、自分たちが成長して いくことを学べるように。				
多様なまち づくりのあり 方④⑤	C: 子ども同 士のつなが り	◎どうして、文化の通訳制度を始める必要 があったのだろう。 ○それでは、大泉町の取り組みに「ぴった りあう」キャッチフレーズをつけよう。	・外国から来た人が多く、生活の仕方やルールを知って もらうためにも、言葉のサポートも必要だから。 ・国境の架け橋となるコミュニティデザイン、お互いの 文化をわかちあうコミュニティデザイン。	他所・過去の 事例 (群馬県大 泉町)
多様なまち づくりのあり 方⑥		◎どうして、町の総合計画を作り始める必 要があったのだろう。 ○それでは、海士町の取り組みに「ぴった りあう」キャッチフレーズをつけよう。	・みんなで町を作っていくといけないうし、自分たち の町の良さを出すため。 ・未来をえがくコミュニティデザイン、個々の力を発揮 コミュニティデザイン。	他所・過去の 事例 (島根県海 士町)
第三次 (3時間) 竜王町の未 来をえがく ①		○竜王町のコミュニティデザインプランを 考えていくために、誰が作っていくのだ ろう。 ◎竜王町のまちづくりの方向性を知って、 これからどんなプランが作れそうか考え てみよう。	・行政の人が中心、住民が中心。行政と住民とが協力し て作っていく。 ・インターネットで情報の発信、町の特産物をポスター や看板、ランキングなどでPR、交通手段を増やす、様々 な人が交流できるイベントを作る、交流の場作り。	此処・現在一 未来の事例 (竜王町の 町づくり)
道徳「プロフェッショナルから学ぶ」②：建築家(考え抜く努力)(1時間) …コミュニティデザインプランをこれから考えていくために、今あるものは何か、住民が必要としているものは何かを、立ち止まって一歩ひいて考 えることを学べるように。				
竜王町の未 来をえがく ②③	C: 子ども同 士のつなが り	○全員でキャッチフレーズを考えてみよ う。 ◎それぞれのグループで、コミュニティデ ザインのプランを考えよう。	・「広めよう！ だれもが創る 竜王町」。この意味は、「み んなで竜王町がよくなるように創っていく、それを他 の人に広めていく」という意味で。 ・ヒントにしたプロジェクトごとに分かれて考えてみた い。	此処・現在一 未来の事例 (竜王町の 町づくり)

〈社会科〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第一次】 竜王町の 現在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の国語科「町の幸福論」の学習で、最近、自分たちの住んでいる町を、町の一員の自分たちが町をよくしていこうとする取り組みがあります。 ◎そこで、今日は、町役場の西村さんにきていただき、「竜王町の現在と未来」についてお話していただきます。学習のめあては、「竜王町のことを、より詳しく学ぼう。」です。 <p>〈町役場の西村さんのお話〉 (流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜王町の現状について ・これからの竜王町がどうなっていくのかについて ・竜王町存続の取り組み ・みんなへのメッセージ 	<p>T：説明する P：聞く</p> <p>T：説明する P：聞く</p> <p>T：補足説明をする P：聞く、書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(そういえば、学習したな。など) ・コミュニティデザインの意味は、「人と人がつながる仕組みを作る」ことやった。 ・竜王町では、町を元気にするための取り組みをしているのかな。 ・竜王町は、今、何人ぐらいの人がたり、どんな人がいるのだろう。 ・今の竜王町の人口は、約12000人です。 ・外国(籍)の人もあるし、障害のある人もいます。 ・竜王町はこの先、「消滅する」と言われています。その原因は、人口減ってきていることに加えて、若者が少なく、高齢者の人が多いからです。 ・竜王町を消滅させないために、役場は「‘ひと’育ち みんなで煌く 交流の郷」というキャッチフレーズでまちづくりプロジェクトに取り組んでいる。 	
<p>〈進行中のまちづくりプロジェクト〉</p> <p>1：人を育てる‘まち’…地域のリーダーを育てる、郷土への思いを育てる</p> <p>2：くらしをよくする‘まち’…交通、施設(商業、観光)、防災・防犯</p> <p>3：魅力を高める‘まち’…産業の活性化、仕事づくり</p> <p>4：みんなが関わる‘まち’…多様な人・団体との交流、イベントの企画・運営</p> <p>5：交流を深める場を作る‘まち’…情報の公開、場所作り(公民館、空き家)</p>				
	<p>○お話を聞いて、どうやった。</p> <p>○西村さんも話していたけど、みんなも町の一員だから、竜王町のためにコミュニティデザインプランを考えることはできるよ。そのための一歩を踏み出している人もいます。</p> <p>◇では、これからの竜王町は、誰がどのように作っていけばいいのだろう。</p>	<p>P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：予想する</p>	<p>プランを考えてみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜王町が消滅すると聞いて、ショックやった。 ・もっといいところを、みんなに知らせたらいい。 ・本当に、みんなでコミュニティデザインプランを考えて、伝えてもいいの。 ・やってみたい。今まで誰もしたことがないことやし、子どもでもできること、子どもやからできることを考えてみたい。んど ・考えたことを伝えるなら、パソコンが使いそうやな。 ・〇〇君、未来の竜王町へのメッセージを書いているやん。など ・町に住む人かな。 ・どんな方法があるのかな。 ・勝手に作られるわけではないと思うけど。 	

<資料>

竜王町『第五次竜王町総合計画 2011→2020』2011年3月に基づき、西村さんにお話をいただいた。

滋賀県竜王町『竜王町60年の歩み 竜王町町制60周年記念誌』竜王町、2015年5月

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第二次】 多様なまちづくりのあり方①</p>	<p>◎この一年、日本の歴史について学習してきたけど、同様に、コミュニティデザインに歴史なんてあるのでしょうか。あるとしたら、どんな歴史なのか。今日の学習のめあては、「コミュニティデザインの歴史をたどろう」です。</p> <p>○資料①は、「ある町のコミュニティデザインの歴史物語」です。資料のドラグーン町はどんな町か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこで、町長さんが、町のために考えたことは何だろう。 ・人と人がつながりを作る仕組みとして作ったものは何だろう。どんな人が住むようになったの。 ・でも、うまくつながりが作れたのでしょうか。 <p>○このような問題を踏まえて次に町長がしたことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして、公園を作るのに、住民の意見を聞いたのだろうか。 ・この公園の作り方に、住民は納得してくれましたか。 <p>○では、まとめていこう。最初のマンションのように、役場（行政）の人だけ、町のために考え、建物をつくることでした。これにキャッチフレーズをつけてみよう。</p> <p>○次は住民の意見を聞いて公園を作りました。このように、行政の人が住民の意見を聞いてつくりました。これにキャッチフレーズをつけてみよう。</p> <p>○そして、これからは、3つ目の「住民同士、住民と行政との協働」によるコミュニティデザインが求められています。</p> <p>◎では、今日の学習で学んだことは何だろう</p>	<p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：指示する、 発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する、 発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する、 発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する、 発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する、 P：考える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり、あるんじゃない。つながりを作る方法は、人によってばらばらだから、その時々にはできるんじゃない。など ・どういうふうにして、その町に住む人と人をつなげてきたんだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・人口2000人の町で、自然豊か。自動車で20分走らないと駅には行けない。など ・もっと、人が住む場所を作ろう。そうすれば、そこに住む住民同士のつながりが作れると考えた。 ・「ドラグーンマンション」（住宅）を作った。 ・日本各地から引っ越してきた人、外国から来た人もいた。など ・作れなかった。理由は住民同士が初対面で、しかも、言葉が通じないこともあり、交流がほとんどないから。つまり、町長は人が住んだ後のことを考えていなかった。など ・住民に「どんな公園にしてほしいか」を聞き取り、「ドラ公園」（公共施設）を作った。 ・住民が使うものだから、住民の願いにあった方が、人が集まり、つながりが作れると思ったから。など ・納得していない人もいる。理由は、必要な物は聞いてくれたけど、意見を聞かずに、どこに何をやるかや使用時間など、細かいことまで聞いてほしかったから。など ・「行政による」コミュニティデザイン。これが1つ目。 ・竜王町で言うと、「住宅」をたてる場所を作ることで、例えば、美松台、松陽台など。 ・「行政が住民の意見を聞く」コミュニティデザイン。これが2つ目ね。 ・竜王町で言うと、町のスポーツ施設である「ドラゴンハット」。あれは名前を住民から募集して決めた。 ・ここまでは、建物や施設を作ることばかりやな。 ・「協働」って大事そう。人と人が協力して、働いていくことってね。 <p>【国語の学習でもあったよな。】 【今までも学習してきたけど、人との関わりをつくっていくことやる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜王町で言うと、ボランティアの人や「〇〇の会」、きらめきフェアで働く人たちのことやね。 ・建物や施設を作るだけではなく、人と人がつながるための方法を考えないといけない。誰が主体になるかは大事なんだな。など 	<p>①</p>

<資料>

①山崎亮「コミュニティデザインの時代」中央公論新社、2012年、pp.114-130より筆者作成。

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第二次】 多様なまち づくりの あり方②	<p>・今日から「住民同士、住民と行政との協働」のコミュニティデザインについて学習します。今回、取り上げる町は埼玉県志木市です。</p> <p>○この町の「行政パートナー制度」とは、どのような取り組みなんだろう。グループで考えてみよう。</p> <p>◎そこで、今日のめあては「どうして、行政パートナー制度をはじめの必要があったのだろう」です。</p> <p>○資料②を読もう。この制度がどうして始まったのかグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>○この制度の成果と課題についてグループで話し合いながらまとめよう。まとめよう。</p> <p>・どうして、町の人の方がもっとパートナー制度に参加しないのだろう。</p> <p>○その後、この町はどのようになったのだろう。</p> <p>○それでは、志木市の取り組みに「ぴったりあう」キャッチフレーズをつけよう。グループで話し合い、「○○○○コミュニティデザイン」という形で発表しよう。</p> <p>◎今日の学び「志木市の取り組みを通して、竜王町のコミュニティデザインを考えるヒントになることは何だろう。」を書いてみよう。</p>	<p>T：提示する、 発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する、 P：予想する</p> <p>T：指示する、 発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 発表する</p> <p>T：発問する P：考える、 書く</p>	<p>・どんな方法があるのかな。</p> <p>・誰が取り組みを始めるのだろう。</p> <p>・埼玉県って、東京都の近くやろ。たくさんの人が住んでいるちゃうかな。</p> <p>・住民に行政のパートナーとして仕事をしてもらおう。</p> <p>・役場で一緒に仕事をしてもらおう。</p> <p>・やっぱり、役場の人の数が少ないから。仕事が多いから、手伝ってもらわなければならないから。など</p> <p>・主体は、志木市長を中心に市役所の人なんだ。</p> <p>・きっかけは、元気で自立する町を作りたい、高齢化に対応した町を作ろう、税金の減少をなくすため。</p> <p>・取り組みの内容は、志木市で活動する人に市役所の人のように一緒に働いてもらい、願いを聞いたり、企画を提案する。市役所の人として働く人は、有償ボランティアとして市の施設で働く。</p> <p>【住民を巻き込んでいる感じがするな。】</p> <p>・成果は、住民の願いを行政の人が理解できた。他人がしていることを意識し、自ら行動するようになった。まちづくりを担う意識が出てきた。</p> <p>・課題は、パートナーをどう確保するか問題。50才以上の人がばかっている。</p> <p>・誰でもなれないのは、パートナーは市役所の人として働くので、説明できるよう研修を受けないといけないから。さらに、簡単にお金を払わないとパートナーになってくれないのではないかな。など</p> <p>・町の人が多くは、自分の仕事を持っているし、何より、仕事をするまでに時間と手間がかかるから。</p> <p>・行政と住民とが一緒に町づくりに取り組むようになった。その結果、「21しき市民会議」や「市民運営協議会」ができた。</p> <p>【えー、すごい難しい。何でもいいんちゃう。】</p> <p>・行政の取り組みから生まれたコミュニティデザイン→行政の人から始めたから。</p> <p>・市長が願ったコミュニティデザイン→市長がやろうと思ったから。</p> <p>・成功するとは限らないコミュニティデザイン→住民が本当に参加してくれるかわからないから。</p> <p>・「自分たちがする」という意識を住民に持たせる。</p> <p>・誰もが参加できる取り組みを作ることが大事。</p> <p>・口火を切る人がいないと町づくりはできない。</p>	②

<資料>

②大東文化大学 国際政治比較研究所「地域デザインフォーラム ブックレット No.11 住民参加」2005年
http://www.daito.ac.jp/designforum/03/200503_booklet_11.html 及び板橋区・大東文化大学地域デザインフォーラムHP
http://www.daito.ac.jp/designforum/03/20041218_lecture_sec3.html 及び志木市HP「志木市民協働のまちづくり推進指針」
<http://www.city.shiki.lg.jp/index.cfm/51,3172,c,html/3172/shiminkyoudousuishinshishin02.pdf> より筆者作成。

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第二次】 多様なまち づくりの あり方③	<p>○今日は、取り上げるのは滋賀県です。ここで、「おいしがーうれしがキャンペーン」とは、どのような取り組みなんだろう。グループで考えてみよう。</p> <p>◎そこで、今日のめあては「どうして、おいしがーうれしがキャンペーンをはじめる必要があったのだろう」です。</p> <p>○資料③を読もう。この取り組みがどうして始まったのかグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>○この制度の成果と課題についてグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>・どんな食材でも、いいわけではないのはどうして。</p> <p>○その後、このキャンペーンをして、滋賀県はどのようになったのだろう。</p> <p>○それでは、滋賀県の取り組みに「ぴったりあう」キャッチフレーズをつけよう。グループで話し合い、「○○○○コミュニティデザイン」という形で発表しよう。</p> <p>◎今日の学び「滋賀県の取り組みを通して、竜王町のコミュニティデザインを考えるヒントになることは何だろう。」を書いてみよう。</p>	<p>T：提示する、 発問する</p> <p>P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する、 P：予想する</p> <p>T：指示する、 発問する</p> <p>P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 発表する</p> <p>T：発問する P：考える、 書く</p>	<p>・なんか、聞いたことがあるな。お店とかにポスターがあるやん。</p> <p>・滋賀県のおいしいものを食べると、みんながうれしくなることを知らせるんじゃない</p> <p>・やっぱり、役場の人の数が少ないから。仕事が多いから、手伝ってもらわなければならない。など</p> <p>・主体は滋賀県庁の人とか食べ物を作ったり、売ったりする人だ。県庁の人と県民の人が協力している。</p> <p>・きっかけは、滋賀県の食材をもっと食べてほしい、地域や家族とのつながりを作るため。</p> <p>・取り組みの内容は、地産地消を進める。そのために、キャンペーンサポーターやキャンペーン推進店を集めている。</p> <p>・成果は、滋賀県産の食材を食べる意識が県民に出てきた。キャンペーンのアピールも、ロゴマークやポスター、インターネットなどを通して増えてきた。</p> <p>【これ、お店で見たり、商品にはってあるな。】</p> <p>・課題は、キャンペーンに参加してくれる人は、誰でもなれるわけではないということ。だって、知事の審査がいるもん。また、どんな食材でもいいわけではないんだ。滋賀県ならではの食材を選んでいる。</p> <p>・そうじゃないと他の県の物を「滋賀県産」として使われたりするかもしれない。滋賀県の食材がおいしいことをアピールするためやろ。</p> <p>・キャンペーンに参加してくれる人・店が増えた。だから、ポスターとか旗とかをよく見るんかな。など</p> <p>【えー、またか、これ難しいねんな。】</p> <p>・地域食材 PR コミュニティデザイン →滋賀県の食材を多くの人にアピールしているから。</p> <p>・県庁と県民の協力コミュニティデザイン →県庁の人と県民の人とが協力して、このキャンペーンを進めたから。</p> <p>・地産地消推進コミュニティデザイン →滋賀県の食材を滋賀県に住む人にもっと食べてほしいから。</p> <p>・行政の人と住民とが一体となることができるものと考えるとよさそう。</p> <p>・もともと、その町にあったものを活かして、みんなにアピール・発信する。</p> <p>・その町ならではのものを、PR する。</p>	③

<資料>

③おいしがーうれしが 滋賀のおいしいコレクションHP <http://shigaqu.jp/oishiga/index.html> 及び、おいしがーうれしが 滋賀のおいしいコレクションHP 「『おいしがーうれしが』キャンペーン実施要領」
<http://shigaqu.jp/document/jissiyouryou.pdf> より筆者作成。

〈道徳〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>個性の伸長 「プロフェッショナルから学ぶ①」</p>	<p>○今日は、国語科「プロフェッショナルたち」の学習の番外編として、教科書に登場してきた人たちとはちがう人の生き方について学習していきます。</p> <p>◎そこで、今日のめあては「プロフェッショナルの生き方から、今の自分を見つめ直すヒントを見つけよう」です。</p> <p>○では、早速、資料を視聴しよう。</p> <p>○この資料に登場するパン職人は、どんな思いで仕事を続けているのでしょうか。</p> <p>○この人が、仕事の中で大切にしていることを聞いて、どう思いますか。</p> <p>◎今の社会科の授業も、今までにない新しいスタイルで学習してるよね。だからこそ、難しいと思うのではなく、これをこえていく必要があるんじゃないかな。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：説明する P：聞く</p> <p>T：指示する P：見る、書く</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する P：聞く</p>	<p>・一体、誰なん。 ・久しぶりのテレビやな。</p> <p>(もうすぐ卒業式やしな。) (これから、いろいろな人に出会うしな。)</p> <p>〈映像の視聴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン職人の人で、名前は竹内久典さん ・金持ちになりたくて、パン職人になった。 ・実は、小学校の時から学校に行くのがつらかった。 ・自分の店を開いたけど、お客の期待（プレッシャー）に応えようとしすぎて、働きすぎた。 ・その時、パンは金儲けの道具になってしまった。 ・仕事をしていても満足感がなく、店を閉めた。 ・そして、自分の作りたいパンを作るために、もう一度、店を開いた。 ・「今日の限界は明日の限界とは限らない。」と信じてやり続けられることが大切。 ・プロフェッショナルとは、「どこにもないものを生み出し、それを日々、深化させられる人」である。 ・パンだけは、他の人に負けたくない。なぜなら、パンはぼくの全てだと思っている。 ・「ふつうにおいしい」をこえるようにしていかないといけない。 ・おいしいパンを追求していこう。 ・「今日の限界は明日の限界ではない。」は、今の自分たちにあうような。 <p>【運動会の時のスローガンも限界突破やったな。】 【2学期にみんなで決めたキャッチフレーズの意味とも合う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちを進化させていかなあかんよな。 ・自分たちの「本気」をみせていかなあかん。 ・キャッチフレーズ作りは難しいけど、ええキャッチ（フレーズ）を作ろうか。 	

<資料> NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～ パン職人・竹内久典」（2016年12月19日放送）

〈社会科〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第二次】 多様なまち づくりの あり方④</p>	<p>○今日もまた、ちがう町のことを学習するけど、資料④を見て考えていきたいと思います。資料④のタイトルは、「新日本風土記～ブラジルタウン」です。このタイトルから想像できることは何だろう。</p> <p>◎そこで、今日のめあては「ブラジルタウンで生活するにはどうしたらいいだろう」です。</p> <p>○では、資料④を見よう。</p> <p>○では、資料④についてまとめよう。ブラジルタウンは何県にある町ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンバチームは、誰がどんな理由で作り始めたのだろう。 ・この町でアパートの大家さんをしている山口さんは、ブラジルの人のためにどんなサポートしていたでしょう。 ・この町にあるキリスト教の協会は誰が作ったのだろう。 ・何か地域の住民との間でトラブルはなかったのか。 ・この騒音問題は誰が、どうやって解決したのだろう。 ・清掃活動は、お互いにとってよかったことなのか。 <p>○その後、この町に新しくできたものは何だろう。</p> <p>◎大泉町のように、外国の人と一緒に生活しようとする、自分たちが変わっていくことが必要みたいですね。今日の学びは、資料⑤の中で登場した日本人の中で、「印象に残った人の取り組みから学べる」ことについて書いてみよう。</p>	<p>T：説明する、 発問する P：考える、 答える</p> <p>T：発問する、 P：予想する</p> <p>T：指示する、 P：見る</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する、 P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル人に人気な所。 ・日本なのに、ブラジルの人しか住んでいない町。 ・日本やけど、町の雰囲気がブラジル。 ・ブラジルの歴史が残されている日本の町。 ・ブラジルの人、日本の人が住んでいて、互いの文化を尊重している。 ・住んでいる人がブラジルのことを知らないといけない。 ・ブラジルの人が日本語を覚え、日本の人がポルトガル語を覚えるんちゃう。 <p>〈映像の視聴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県大泉町。ここは昔から、外国の人が働きに来ていたんだ。 ・アメリカ軍の基地もあった場所。 ・作ったのは、この町に住む日本の講内さん。 ・理由は、ブラジルの人を元気づけるため。 ・ゴミ出しのルールを教える。 ・相手のペースを知って交流をする。 <p>【日本なのに、ブラジルの相手に合わせるなんてすごいな。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったのはブラジルの人で、自分たちでお金を出し合って作った。【自分らでお金を出し合うなんてすごい。】 ・協会で歌う賛美歌の音がうるさいと苦情がきた。 ・苦情を言ったのは、住民が直接言うのではなく、警察が言いに来たのが、ブラジルの人嫌だった。 ・一番最初に協会でブラジルの人と話した、元警察官の鈴木さんだった。 ・鈴木さんは日本の人とブラジルの人とで一緒に町の清掃活動を行った。 ・町のみんなが一緒にやることで、お互いへの存在が身近になり、関わりが作れるようになった。 ・鈴木さんは相手のためにポルトガル語を覚えた。 <p>【言葉が話せるって、やっぱりいいんやな。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SOS センターで、ポルトガル語のサポート行こうとこる。 ・山口さん取り組みを見て、交流するって大事だと思う。その中で、「相手に合わせる」ことができる。 ・鈴木さんの清掃活動の取り組みは、ブラジルの人との交流を深めることだけでなく、町のためにもなるし、お金などもかからずに、一石二鳥になる。 ・講内さんの取り組みで印象に残ったことは、サンバチームを作ったことです。それは、町の人を1秒でも多く楽しませたいと思う気持ちや、日本に住んでいてもブラジルに住んでいるような感じにしたかったからだと思います。 	<p>④</p>

<資料> ④NHKBS プレミアム 新日本風土記「ブラジルタウン 大泉町」(2016年7月22日放送)

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第二次】 多様なまち づくりの あり方⑤	<p>○今日は、取り上げるのは群馬県大泉町です。ここで、「文化の通訳制度」とは、どのような取り組みかな。グループで考えてみよう。</p> <p>◎そこで、今日のめあては「どうして、文化の通訳制度をはじめた必要があるのだろう」です。</p> <p>○資料⑤を読もう。この制度がどうして始まったのかグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>○この制度の成果と課題についてグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>・「地域住民」としてブラジルの人と関わることで、まちづくりに何かメリットがあるの。</p> <p>・実は、この取り組みは、新しいまちづくりの1つとして資料⑥でも取り上げられています。</p> <p>○その後、この町はどのようになったのだろう。</p> <p>○それでは、大泉町の取り組みに「ぴったりあう」キャッチフレーズをつけよう。グループで話し合い、「○○○○コミュニティデザイン」という形で発表しよう。</p> <p>◎今日の学び「大泉町の取り組みを通して、竜王町のコミュニティデザインを考えるヒントになることは何だろう。」を書いてみよう。</p>	<p>T：提示する、 発問する</p> <p>P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する、 P：予想する</p> <p>T：指示する、 発問する</p> <p>P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：説明する P：読む、 考える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：考える、 書く</p>	<p>・ブラジルの人のために、ゴミ出しとかの生活のルールなどをポルトガル語に訳して教える。</p> <p>・町に住む人が、お互いの文化について知るための取り組み。</p> <p>・そりゃ、ブラジルの人が多いからやろ。日本語をポルトガル語に通訳するんちゃう。 【ミドリさんやホドさんの話を思い出すと、言葉が話せないことはつらいもんな。】</p> <p>・主体は、町役場の人たちと住民が協力している。</p> <p>・きっかけは、外国から来た人が多く、生活の仕方やルールを知ってもらうためにも、言葉のサポートも必要だから。【情報を正確に伝えなあかんしな。】</p> <p>・取り組みの内容は、住民の中で通訳できる人が、コミュニティセンターで通訳として働く。通訳の人にはもっといろいろな文化を知ってもらうための通訳講座をひらいている。</p> <p>・成果はブラジルの人で町の行事に参加する人が増えた【掃除もみんなでしていた】。新聞やテレビ局の取材も多く、取り組みを理解してくれる人が増えた。「地区別懇談会」が開かれるようになった。【日本・ブラジルの住民、行政の人が参加している。】</p> <p>・課題は言葉の問題。お互いの言葉を理解していないから、「地区別懇談会」はあるけど、そこに参加する外国の人は少ない。外国の人を「労働者」として見るのではなく、「地域住民」として見れてない。 【ビデオに出てきた山口さんや鈴木さんのように関わり方を変えていかないと無理。】</p> <p>・だって、お互いの距離が縮まるし、相手のペースを知って関わるができるやん。【山口さんの関わり方や。】</p> <p>【同じ町に住む「住民」として関わらないと、何かあったときに協力してもらうこともできないよな。】</p> <p>・日本で同じ課題を持つ、他の都市と協力している。</p> <p>・共に生活するまちづくりに向けて話し合っている。 【今日は、今までの限界をこえたいな。】</p> <p>・国境の架け橋となるコミュニティデザイン →日本人とブラジルの人をつなぐから。</p> <p>・お互いの文化をわかちあうコミュニティデザイン →別々の文化が1つの町の中にあるから。</p> <p>・「協力から理解へ」のコミュニティデザイン →最初は協力していたけど、後でいろいろなことを理解できるようになったから。</p> <p>・外国の人がいるので言葉の問題を解決していく。</p> <p>・外国の人に情報を知らせるための、広報誌を作る。</p> <p>・「〇〇人」ではなく、その町の「住民」として取り組む。</p>	<p>⑤</p> <p>⑥</p>

<資料>

- ⑤全国町村会HP「群馬県大泉町 秩序ある多文化共生のまちづくりを目指して～外国人集住率が16%を超えた町～」
<http://www.zck.or.jp/forum/forum/2620/2620.htm> 及び総務省HP「地方公共団体の取り組み事例（大泉町）」
www.soumu.go.jp/main_content/000116684.pdf より筆者作成。
- ⑥「上毛新聞」2011年2月12日 総務省HP「地方公共団体の取り組み事例（大泉町）」
www.soumu.go.jp/main_content/000116684.pdf

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第二次】 多様なまち づくりの あり方⑥	<p>○今日は、取り上げるのは島根県海士町です。ここで、「町の総合計画」とは、どのような取り組みかな。グループで考えてみよう。</p> <p>◎そこで、今日のめあては「どうして、町の総合計画を作り始める必要があったのだろう」です。</p> <p>○資料⑦を読もう。この取り組みがどうして始まったのかグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>○この制度の成果と課題についてグループで話し合いながらまとめよう。</p> <p>・自分たちが町の総合計画を作るなら、自分たちがしたいこと「だけ」したらいいのに、できないのはどうして。</p> <p>○その後、この町はどのようなようになったのだろう。</p> <p>○それでは、海士町の取り組みに「ぴったりあう」キャッチフレーズをつけよう。グループで話し合い、「○○○○コミュニティデザイン」という形で発表しよう。</p> <p>◎今日の学び「海士町の取り組みを通して、竜王町のコミュニティデザインを考えるヒントになることは何だろう。」を書いてみよう。</p>	<p>T：提示する、 発問する</p> <p>P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する、 P：予想する</p> <p>T：指示する、 発問する</p> <p>P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 答える</p> <p>T：発問する P：考える、 書く</p>	<p>・これ、国語でも勉強した町や。</p> <p>・町の人が、どんな町にするかを考える。</p> <p>・町に何を作るかとかを考える。</p> <p>【確か、主体的に、継続的にがポイントやったな。】</p> <p>・高齢者が多く、町の人の数が減ってきているから、みんなで町を作っていくといけないから。</p> <p>・自分たちの町の良さを出すため。</p> <p>・主体は、この町出身の町長と住民。町に住んでいる人が中心ってことや。</p> <p>・きっかけは、海士町に住みたいと思ってもらったり、住民と行政も一緒に作ろうとして。住民同士のコミュニケーション不足をなくすために。</p> <p>・取り組みの内容は、まちづくりのプロジェクト（人、暮らし、環境、産業）をスタートさせ、作成していった。みんなでやることで、人と人がつながる仕組みを作っていく。</p> <p>・成果は住民がチームを作るので、関わる人が増えていく【自分の力を発揮するチームに入るんやね。】。何より、住民の願いをかなえる。「海士町の未来をt来る会」ができた。</p> <p>・課題は町に住む誰もが参加できないこと。仕事をしていたり、（高齢者の人は）サポートを受けているから。（プロジェクトを）一から作るのは難しいし、すぐにはできない。何より、自分たちがしたいこと「だけ」はできない</p> <p>・だって、町の人全員のことを考えないといけないし、みんなが納得しないといけない。今までのまちづくりの方向性とちがっていたら、今ある物を使えないやん。【学級での話し合いみたいやな。僕らも同じことしてるんちゃう。】</p> <p>・「海士町をつくる24の提案」を出した。それを住民に説明した。人数別に参加する方法も報告した。</p> <p>【だいた、やり方がわかってきたな。】</p> <p>・一人一人の声を聞いて実現させようコミュニティデザイン</p> <p>→4つの部（チーム）にわかれて、一人一人の意見を聞いているから。</p> <p>・未来をえがくコミュニティデザイン</p> <p>→未来に向けて実行している計画だから。</p> <p>・個々の力を発揮コミュニティデザイン</p> <p>→住民が自分の興味のあるチームに入り、プロジェクトを考えることで、自分たちの力を発揮できるようになるから。</p> <p>・24の提案を考えたようにいくつかの提案を考える</p> <p>・「町に住む人」の意見を行政の人も聞く。</p> <p>・「チーム」を作り、自分の力が一番発揮できるチームに入り、そこで自分の「もちあじ」を出す。</p>	⑦

<資料>

⑦山崎亮『コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる』学芸出版社、2011年、pp.124-142 及び老岐郡海士町オフィシャルサイト「第四次海士町総合振興計画」http://www.town.ama.shimane.jp/gyosei/pdf/ama_soshin04all.pdf 及び老岐郡海士町オフィシャルサイト「第四次総合振興計画（別冊）「提案をかたちにするために」」http://www.town.ama.shimane.jp/gyosei/pdf/4soshin_betsu_ending.pdf より筆者作成。

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第三次】 竜王町の未来をえがく①</p>	<p>◎今日からは、これからの竜王町のために、コミュニティデザインプランを考えよう。今日のめあては「これからの竜王町のコミュニティデザインを考えるための、方向性をさぐる」です。</p> <p>○資料⑧を読もう。改めて今の竜王町について、まちづくりの方向性について考えたいと思います。</p> <p>・竜王町の人口についてはどうですか。</p> <p>・中学生も答えている町民のアンケートから4つのテーマをまとめてみよう。</p> <p>・竜王町のコミュニティデザインプランを考えていくために、誰が作っていくのだろう。</p> <p>・どんな目的で取り組むのだろう。</p> <p>・どんな方法を考えているのだろう。</p> <p>◎今日の学び「竜王町のまちづくりの方向性を知って、これからどんなプランが作れそうですか」を書いてみよう。</p>	<p>T：説明する、 発問する P：予想する</p> <p>T：説明する P：聞く</p> <p>T：発問する、 P：答える T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える T：発問する P：答える T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：書く</p>	<p>・ついに考えるんやな。 ・今までのヒントを使えるかも。 ・今まではどんなプランがあったのだろう。 ・西村さんが言っていたことは何やったっけ。</p> <p>【西村さんが話していたことの確認や。】</p> <p>・子どもが少なくなっている。 ・逆に、高齢者が多い。</p> <p><u><定住について></u> ・町は落ち着けて、自然もたくさんある。 ・交通手段は少なく、店もどちらかといえば少ない。</p> <p><u><町に必要なこと></u> ・交通手段を増やす、店を増やす。</p> <p><u><協働について></u> ・リサイクル活動や防災・防犯活動はみんなのできる。 ・住民や行政が意見交換する場を作る。</p> <p><u><町の将来について></u> ・自然を守り、安心して暮らせる町にしたい。 ・交通手段を増やしたり、店を増やしていきたい。 ・行政中心。住民中心。行政と住民の協力。 【協働のパターンで考えないと。3つ目のコミュニティデザインを総合計画でも書いてるやん。】 ・町民と行政の協働により築く、オリジナルなまちづくりをめざして ・プランのキャッチフレーズを作ってやるで。 「ひと’ 育ち みんなで煌く 交竜の郷」 ・これを大事にして、5つの視点から考えてやる。 ①人を育てる‘まち’ …子育てをしやすくしたり、地域のリーダーを育てる(RSNS) ②くらしをよくする‘まち’ …交通・移動手段、施設(空き家)を活かす、自然を守る、防犯、防災 ③魅力を高める‘まち’ …仕事づくり、特産物のブランド化・PR ④みんなが関わる‘まち’ …多様な人・団体(日本・外国の人、障害の有無、ボランティアなど)との交流(祭り、イベントの企画・運営) ⑤交流を深める場を作る‘まち’ …情報の発信(インターネット、ポスター)、場所(公民館、コミュニティセンター)をつくる ・インターネットで情報の発信、町の特産物をポスターや看板、ランキングなどでPR、交通手段を増やす。 様々な人が交流できるイベントを作る。交流する場を作る。空き家を活かす。など</p>	<p>⑧</p>

<資料>

⑧竜王町『第五次竜王町総合計画 2011→2020』2011年3月

〈道徳〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>道徳「プロフェッショナルから学ぶ②」</p>	<p>◎今日は、国語科「プロフェッショナルたち」の学習の番外編・第2弾として学習していきます。今日のめあては「プロフェッショナルの生き方から、今の自分を見つめ直すヒントを見つけよう」です。</p> <p>○では、早速、資料を視聴しよう。</p> <p>○この資料に登場する建築家は、どんな思いで仕事を続けているのでしょうか。</p> <p>○この人が、仕事の中で大切にしていることを聞いて、どう思いますか。</p> <p>◎これから、プランを考えていくけど、一度、自分たちの町のことを良く知る必要があるようやね。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：指示する P：見る、書く</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する P：聞く</p>	<p>・今回は、誰やろ。</p> <p>・結構、プロフェッショナル、おもしろいよな。</p> <p>〈映像の視聴〉</p> <p>・建築家の人で、名前は大島芳彦さん</p> <p>・家や建物をリノベーションする。</p> <p>・住む人のことを考えている。</p> <p>・「任せたぞ。」と言われるけど、それが、「人任せにされている」と思うようになった。</p> <p>・全国各地で、リノベーションスクールをしている。そのために、その町の、その建物の良さを見つけることを大切にしている。</p> <p>・建物だけでなく、町全体を変えていく依頼されている。</p> <p>・プロフェッショナルとは、「一歩下がって全体を見ることによって、伝える」人である。</p> <p>・周りとの関係も考えていく必要がある。</p> <p>・今ある建物の良さを生かすことが、その町にとって大切だと思っている。</p> <p>・人とのつながりを生むプランを作っていく。</p> <p>・伝え方をデザインしていくことって、本当に大事になんやな。</p> <p>【だって、役場の人に言うんやし、自分らの思いをうまく伝えなかんしな。】</p> <p>・その町に住んでいる自分たちが、町の見方を変えていかんとな。そうじゃないと、自慢なんかできひんやん。</p> <p>・よく考えてプランを考えていかないと。今までと同じことをしても仕方がないし。</p> <p>・キャッチフレーズ作りのプラン作りやな。</p>	

<資料> NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～ 建築家・大島芳彦」(2017年1月16日放送)

〈社会科〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第三次】 竜王町の未来をえがく②</p>	<p>◎今日のめあては「竜王町の未来をえがくキャッチフレーズを考えよう。」です。どうして、プランを考える前に、キャッチフレーズを考えるのだろう。</p> <p>○グループごとにキャッチフレーズを考えてみよう。</p> <p>・どれか一つに決めるか、それとも、それぞれを融合させてもう一度作るか、どうする。</p> <p>・では、キャッチフレーズを創るために、大事な言葉は何だろう。</p> <p>◎全員でキャッチフレーズを考えてみよう。</p> <p>○よし、このクラスでコミュニティデザインプランを考える時のキャッチフレーズができました。次はどのプロジェクトをヒントにするかを考えよう。</p> <p>・でも、ヒントにするプロジェクトの視点「だけ」で考えたらいいの。例えば、②くらしをよくする‘まち’なら、移動手段をどうするかだけで考えたらいいの。</p> <p>・そしたら、4つのプロジェクト同士の関わりを見てみよう。</p> <p>○では、それぞれ、コミュニティデザインのプランを考えよう。プランを作る時には、「ヒントにしたプロジェクト」、「主体」、「目的」「プラン名」、「方法」を意識しよう。</p>	<p>T：説明する、 発問する P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 発表する</p> <p>T：発問する、 P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：話し合う、 発表する</p> <p>T：発問する P：考える、 発表する</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する P：活動する</p>	<p>・だって、どんな取り組みをするのかを西村さんに一言でわかるようにした方がいい。</p> <p>・みんなの方向性がバラバラだとあかんから。 【役場の人に提案するって決まってるし、町の総合計画でもキャッチフレーズを作ってるし。】</p> <p>・行政の人だけでなく、住民をふり向かせ、みんなで活動に取り組む</p> <p>・人と人とがふれあい、関わり合い、だれもが安心してくらせる竜王町を創る。</p> <p>・みんなで協力して竜王町の未来を築こう。</p> <p>・これからの竜王町はどうなるの？私たちが作っていくんだよ。</p> <p>・広めよう！竜王町の良い所、行政と住民が協力する</p> <p>・何かもう一度決めたい。</p> <p>・それぞれのキャッチフレーズの大事な言葉を選んで、考えよう。</p> <p>・「誰もが」「創る」「広めよう」。</p> <p>・竜王町はいるよな。</p> <p>・「広めよう！だれもが創る 竜王町」。この意味は、「みんなで竜王町がよくなるように創っていき、それを他の人に広めていく」という意味で。 【すげー、Sさんの言ったやつにしよう。】</p> <p>・プロジェクト「①人を育てる‘まち’」は、少し僕らでは考えにくいかな。</p> <p>・他のプロジェクト「②くらしをよくする‘まち’、③魅力を高める‘まち’、④みんなが関わる‘まち’、⑤交流を深める場を作る‘まち’」なら、私らでも考えられそう。</p> <p>・それもいいけど、他のプロジェクトとの関わりもいるんちゃう。</p> <p>・海士町の「24の提案」も、「くらし」のチームが「人」の視点も踏まえて、高齢者を町のイベントに誘うプロジェクトをしていたな。</p> <p>・「くらし」で、せめて町内の移動手段が増えれば、「関わり」のいろいろな人との交流が増えそう。</p> <p>・「関わり」で、竜王町にも外国の人が住んでいることからお互い言葉の理解のために、「交流の場」で何か情報を発信できるんちゃうかな。</p> <p>・先生でパソコンでも調べてみたい。</p> <p>・ヒントにしたプロジェクトごとに考えてみたい。</p> <p>②くらしをよくする‘まち’・・・9人 →行政主導：4、住民と行政の協力：4、住民主導：1</p> <p>③魅力を高める‘まち’・・・10人 →行政主導：2、住民と行政の協力：6、住民主導：2</p> <p>④みんなが関わる‘まち’・・・10人 →行政主導：0、住民と行政の協力：7、住民主導：3</p> <p>⑤交流を深める場を作る‘まち’・・・4人 →行政主導：2、住民と行政の協力：2、住民主導：0</p>	<p>② ③ ⑤ ⑦</p>

<資料>

②「埼玉県志木市」のプリント、③「滋賀県」のプリント、⑤「群馬県大泉町」のプリント、⑦「島根県海士町」のプリント

<くらしを良くする‘まち’>

型	番号	誰が	目的	方法	
				プラン名	方法
行政主導	3	行政中心	竜王町で交通手段を増やし、観光客の案内などをするため。	行け！ 竜王バス	竜王町で交通手段の困っている人たちが利用できるようにするためと、観光客が乗れるようなバス。町内の施設に行けるように、3台バスを作り、それぞれにコースを作る。
	15	行政中心	家族で楽しめることをするため。	竜王自然アスレチック	家族と一緒に遊んで楽しめるアスレチックを、自然の形を残しながら作る。
	27	住民が中心となって	自然を守り、活かして楽しめる場所を作ることで、竜王町に住みたい人が増えるように。	一石三鳥 自然いっぱい 竜王自然公園	竜王町の自然をこれから守っていくために、主に木材などを使って、子どもが遊んで楽しく、行きやすい公園を作る。作る時に、住民に何を作ってほしいか、公園のルールなどアンケートをとって参考にする。
	33	住民の人	運転できない人や子どもが自転車を使って移動することが多いため。	みんなを守る ドラゴサポート	自転車道（専用）をつくらったり、街灯をつける。
行政と住民の協力	5	住民の意見をもとに、住民と行政と一緒に	誰もが安心して、快適に毎日を暮らせるように	みんな安心、安全の 竜王町	竜王町の人にアンケートをとり、町の中で直してほしい箇所を直していく。また、自分たちで、防災を呼びかける。
	6	行政と住民の人	誰もが遊べるような所を作ることで、自然と共に一人一人ふれあいを作るため。	自然で遊ぼう ドラゴンアスレチック	いろいろなアトラクションを誰もが楽しめるように、年齢別にコースを作り、ルールを作る。作る場所は、道の駅の近くにすることで、お客さんも来やすい。
	10	行政と住民が協力しあって	みんなに農業を体験してもらおう。	農業のことを知り、だれでも体験	農業の大変さを知ってもらうことや、食べ物の大変さを知ってもらう。
	12	行政と住民が協力して	たくさんの人が住んでほしいし、竜王町も目立ってほしい。	自然をつかっていこう	自然がたくさんあり、住むのに心地よいことをインターネットでアピールする。
住民主導	19	住民が中心となって	ゴミ拾いなどをして竜王町をキレイにするため。	みんなで自分たちの町を「キレイ」にしようじゃないか	日程などを決めて、竜王町、それぞれの地区全体でゴミ拾いをする。また、ポイ捨てなどをなくすために、ポスターなどを作って呼びかける。

<魅力を高める‘まち’>

型	番号	誰が	目的	方法	
				プラン名	方法
行政主導	1	行政中心	住民もまちづくりをするけど、始めは行政中心にするため。	竜王を輝かせるコミュニティデザイン	近江牛などの有名な物をパソコンなどを使って、竜王町以外の町に広める。
	32	行政中心で住民も混ざっていく	観光客などに竜王町の良さを知ってもらうため。	みんなで楽しもう！ PR 竜王町	ガイドブックを作り、いろいろな人が交流している写真をのせる。そして、特産品や子どもが遊べる場所などの情報をインターネットでも発信する。
行政と住民の協力	2	住民と行政が協力して	竜王町の「魅力」を集め、ランキングを作成し、他地域の人が知ってもらう。	竜王町の魅力がぎゅっしり！ランキングブック	どんな品物、土産、観光地、遊び場があるのかをまとめ、住民の声をもとにランキングを作成する。町のホームページやパンフレットなどでPRする。
	11	住民と行政が伝える	竜王町のまだ知らない魅力に気づかせるため。	よくみるとラッキーブック	竜王町の情報を本にのせる。次に、その本にはがきをつけ、応募し、当たると、竜王町の特産物を食べられる。
	17	行政、住民と一緒に	竜王町の知られていない部分まで知ってもらうため。	BOOKでPRしよう	特産品などを紹介する本を作る。特に、まだみんなに知られていない特産品もあるから、それらを本にのせて、他の県の人にも興味をもってもらおう。
	18	行政と住民の人	竜王町の特産物や有名な物を知ってもらうため。	みんな喜び みんなうれしい コミュニティデザイン	竜王町で有名な物を少し安く売り、貝に買いに来た人に食べてもらう。
	25	行政と住民が協力して	特産物を使い、竜王町をPRして、少しでも有名にする。	竜王町の特産物をPRし、有名になろう	年に4、5回、特産物を使ったお店を開き、雑誌やホームページにのせてみんなに気づいてもらう。また、ポイントカードを作り、100ポイント以上ためたら、特産物を1つプレゼントする。
	26	行政と住民が協力して	観光スポットをアピールし、観光客を増やすため。	竜王町の観光スポットをアピールしよう	町の公式サイトに、竜王町の観光スポットをいっぱい載せる。見た人先着で30名ぐらいを無料で観光バスにのせて観光してもらう。また、昼ご飯には竜王町の特産物を食べてもらう。
住民主導	13	住民が中心となって	自分たちの町の魅力をみんなで見えるため。	竜王 みんなの動画ドラゴンチューブ	町の魅力を動画に投稿してみんなで見える。すると、いろいろな視点から町を見れる。
	14	住民中心	竜王町の「魅力」お集めたものを1つずつ動画にする。	竜王の人気をあげるドラゴンムービー	特産物や観光施設を動画でアピールする。動画は一月ごとに増やす。

<みんなが関わる‘まち’>

型	番号	誰が	目的	方法	
				プラン名	方法
行政と住民の協力の協力	4	行政と住民	人と人が関われるように	みんなあおいでよ フリーマーケット	月に1回、ドラゴンハットで時間を決めてする。誰でも参加してよい。
	8	行政と住民で協力して	行政と住民が今まで以上に交流をする	みんな集合！！スポーツ交流大作戦	みんなが知っているスポーツで交流する。場所はドラゴンハット。
	16	住民と行政が協力して	みんなの交流、関わりを増やすため。	気軽に語り合うコミュニティデザイン	誰にでもあいさつしたり、手伝いをしたり、生活支援グループを作る。行政の人は支援グループの紹介をしたり、グループを支援する。
	21	住民と行政が協力して	参加する人と仲良くするため。	竜王スポーツ大会	年に1回、スポーツ大会をする。初めは竜王町だけだけど、だんだん他の町も参加してもらう。
	22	行政、住民と一緒に	他の国の文化、スポーツ、郷土料理をみんなに知ってもらい、交流してもらう。	みんなあおいでよ！アピール大作戦	年に2回。誰でも参加してもよい。日本や他の国の郷土料理を屋台で出し合う。郷土料理を作る人は、竜王町に住んでいる人がする。スポーツは各国の人気スポーツをみんなでやる。
	29	行政と住民の人	交流の場を作り、竜王町の魅力を知ってもらうため。	空き家でスクールプロジェクト	空き家を使い、ボランティアを募集して、そのボランティアがしたいスクール（学習）を開く。空き家に行くときにはバスを使い、バスのドライバーも募集する。
	30	行政と住民	町民同士が交流を深めて、季節による遊びを楽しんでほしいため。	季節でちがう遊びを楽しもう大作戦	竜王町にある施設「妹背の里」で、季節ごとにいろいろな遊びをする。
住民主導	20	住民が主体になって	障害のある人と健常者の関わりを作るため。	スポーツ ドラゴン	障害のある人と健常者が一緒に、障害者スポーツの体験をし、交流を深める。
	24	住民が中心になる	住民（子ども、大人、高齢者、外国の人）と住民が関われるから。	交流を深めるコミュニティデザイン	子どもや高齢者などが日本の昔の遊びをしたり、外国の遊びを教えてもらったりする場所を作り、交流を深める。空き家などを使うとよりよい。
	31	住民が中心	人と人が仲良くなる（きずなを深める）ため。	ドラゴン自然教室	2泊3日でキャンプをし、役場から広告を配って参加者を集める。親がキャンプにいない時には、行政の人が代わりに担当する。

<くらしを良くする‘まち’>

型	番号	誰が	目的	方法	
				プラン名	方法
行政主導	9	行政をはじめ、住民をさそい込む	イベントの間、初めてあった人と同士でも協力し合って仲良くしてほしいから。	解き明かせ 竜王町のなぞ	ポスターで宣伝し、インターネットでイベントに参加する人を募集する。募集した人を、行政の人がチームを作り、町内で解き明かす問題をわたり、町内の人にヒントをもらったりする。
	23	行政の人が中心に	竜王町のことを少しでも知ってもらうため。	竜王町のことを少しでも知ってくれ	竜王町ならではのものを展示する。
行政と住民の協力の協力	7	住民と行政が協力して住民を交流させる	「みんな友だち」という意識で、いろいろな人と遊んだり、きずなを深めたりするため。	文通・お招き隊	自分の家に泊まってきてもらっても大丈夫な人を募集し、子どもが泊まりにくく。また、文通は、ちがう学校の人たちやいろいろな家の人たちとやりとりをする。
	28	行政と住民の協力	交流の場を作る	イベントたくさんドラゴン公園	CMやグッズを作る、公園でイベントをしたり、竜王町についての博物館を作るなどして、人が集まる公園に宿泊施設や住宅を作る。

表2 小学校第6学年社会科大単元「コミュニティデザインと私たちの未来のまち」の単元構成（総合的な学習の時間編：全11時間）

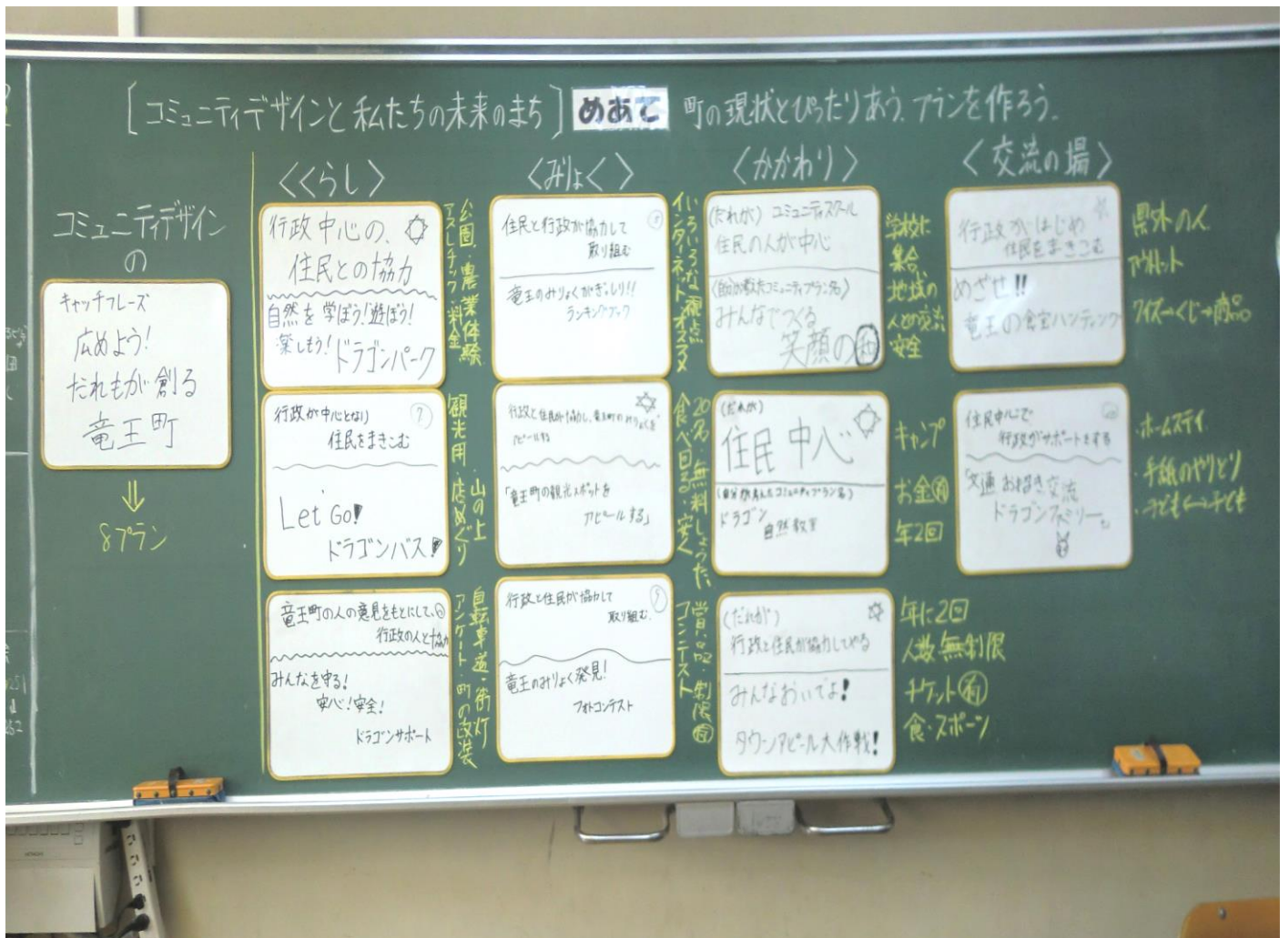
次数	学習パート	教師の主発問	子どもに獲得させたい知識	認識対象・事例
第一次 (1時間) プラン選定 ①	C:子ども同士のつながり	○町の現状とびったりあうプランを作ろう。 ◎8つのプランの中から自分が作ってみたいプランを選ぼう。	・できるだけ、全部のプランを作りたい。でも、実際には全部、簡単にはできないよね。 ・食宝ハンティング、フォトコンテスト、ドラゴンパス、ドラゴンサポート、ドラゴンファミリー、ランキングブック、ドラゴンパーク、ドラゴンアビールから選ぶ。	此処・現在一未来の事例（竜王町の町づくり）
道徳「プロフェッショナルから学ぶ」③：スキージャンパー（未来への希望）（1時間） …今までの6年生がしたことがないパソコンでの発表をしてきたし、今回の学習も誰もしたことがないことから、自分たちが6年生の「レジェンド」となるように、努力していくことの大切さを学べるように。				
第二次 (5時間) プラン作成 ①下書き	C:子ども同士のつながり	○プラン名を作り、中身を考えよう。 ◎グループごとにプラン名を発表して、発表の順番を決めよう。	・発表の流れ・フォーマットは、「1 プラン作成の理由」、「2 ヒントにしたまちづくりプロジェクト」、「3 実際のプランについて」（1）だれが主体となって取り組むのか（2）どんな目的で取り組むのか（3）どのような方法で取り組むのか、「4 プランの効果」、「5 役場の人へのメッセージ」で作る。 ・1 クイズで学んで食宝ゲット ドラゴン探検隊 ・2 ドラゴン「ホット」サポート ・3 みんなで泊まろう 遊ぼう 楽しもう ドラゴンファミリー ・4 おいしい 楽しい 魅力がぎゅーしり ドラゴンランキングブック ・5 Let's Go ドラゴンパス ・6 自然で学ぼう！ 遊ぼう！ 楽しもう！ ドラゴンパーク ・7 みんなおいでよ！ ドラゴンアビール大作戦 ・8 竜王町の魅力を発信 ドラゴンフォト五輪	此処・現在一未来の事例（竜王町の町づくり）
プラン作成 ②③パソコンでの資料作成		◎2つのポイントを考えてプランを作ろう。 ○チームごとに話し合いながら、パソコンで資料を作っていこう。	・2つのポイントとは、「竜王町の消滅を防ぐために」、そして、「今ある地域資源を使うために」である。 ・文字とイラストのレイアウトや文字のフォントに気をつけていく。	
プラン作成 ④⑤原稿作成		◎相手を納得させる発表原稿を作ろう。 ○発表の流れを意識して、チームごとに話し合いながら、原稿を作っていこう。	・「相手意識」を持って原稿を作っていくことが大切。 ・大事なことをいう時は、ジェスチャーをつけたり、スライドとスライドとをつなぐ文章をうまく作ろう。	
第三次 (3時間) プラン発表 ①リハーサル	D:教室(学校)から社会とのつながり	◎相手を納得させる発表の仕方を考えよう。 ○チームごとにスクリーンに映しながらリハーサルをしていこう。	・次の4つが大事である。①スライドの文章と文章との間をつなぐ。②スライドの言葉を具体的に説明する。③言葉に合うジェスチャーを入れる。④話し方の強弱、間をとる。 ・発表前の最後の確認をする。発表の流れを説明するときに、指を使ってみる。	此処・現在一未来の事例（竜王町の町づくり）
プラン発表 ②③本番		◎自分たちが考えたプランを発表しよう。 ○発表会の感想を聞いてみよう。	・みんなで町を作っていけないといけないし、自分たちの町の良さを出すため。 ・西村さんからクオリティが高いって言われたし、教育町も、真剣に考えてくれてうれしいって話してくれた。	
学活「町の一員として」（1時間） …提案したことが新聞や広報にのり、改めて、「町の一員・主権者」として自分たちにもできることがあることをふり返る。				

〈総合的な学習の時間〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第一次】 プラン選定 ①</p>	<p>◎今日は、一人一人が作ったコミュニティデザインプランをもとに、クラスでプランを作ろう。学習のめあては、「町の現状とぴったりのプランを作ろう」です。</p> <p>○改めて、ヒントにするプロジェクトごとに集まり、3つまでプランを作っていこう。</p> <p>○では、プロジェクトごとに考えたプランを発表しよう。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：説明する P：考える、 作る</p> <p>T：説明する P：発表する</p>	<p>【くらしをよくする‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まったみんなのプランが、上手く使って考えられそう。 ・遊びのイベントの1つに農業体験を入れよう。 ・そして、その場所に行くために、バスを走らせたらどう。 ・そしたら、わかれて作ろう。 <p>【魅力を高める‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画よりも季節に合う写真を撮る方がだれでもできそうやん。 ・その場で、ランキングをつけられるように、声を集めたらどう。 <p>【みんなが関わる‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔の☺はどう。「和」は、「平和とか、和ます」の意味で、「〇」は「輪、つながり」の意味。 <p>【交流を深める場を作る‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「竜王」よりも「ドラゴン」ってつけた方が、言葉の響きがいいんちゃう。 ・交流する建物を建てるのもいいけど、今の状況ではお金がないんちゃう。 <p>【くらしをよくする‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政中心だけど、住民の協力も必要な「自然を学ぼう！遊ぼう！楽しもう！ドラゴンパーク」 ・行政が中心となり、住民を巻き込む「Let's Go ドラゴンバス！」 ・竜王町の人の意見をもと行政の人と協力「みんなを守る！安心！安全！ドラゴンサポート！」 <p>【魅力を高める‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民と行政が協力して取り組む「竜王のみりよくがぎっしり！！ランキングブック！」 ・行政と住民が協力し、竜王のみりよくをアピールする「竜王町の観光スポットアピール」 ・住民と行政が協力して取り組む「竜王のみりよく発見 フォトコンテスト」 <p>【みんなが関わる‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の人が中心となる、「みんなでつくる笑顔の☺」 ・住民中心の「ドラゴン自然教室」 ・行政と住民が協力してやる「みんなおいでよ！タウンアピール大作戦！」 <p>【交流を深める場を作る‘まち’】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政がはじめ、住民を巻き込む「めざせ！竜王の食宝ハンティング」 	

<p>○さらに、ここからプランを絞っていくけど、今、発表したプランを見て、何か意見はありますか。</p> <p>○では、決まったプランを確認しよう。</p> <p>◎今日は、町の現状に合うプランを作ることでした。話し合いにより、8つのプランをクラスで作りたいと思います。自分が作ってみたいプランをアンケートに書いて選んでください。</p>	<p>T: 発問する P: 考える、 答える</p> <p>T: 発問する P: 聞く</p> <p>T: 発問する P: 考える、 書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民中心で行政がサポートする「文通お招き交流ドラゴンファミリー」 ・できるだけ、全部のプランを作りたい。でも、実際には全部、簡単にはできないよね。 ・自然教室は、ドラゴンパークのイベントの1つにできるんちゃう。 ・【魅力を高める‘まち’】の観光アピールと【みんなが関わる‘まち’】のタウンアピール大作戦は1つにできそう。 ・ドラゴンサポートは、これから（中学校まで自転車で通う）中学生になるし、大事なな。 ・「みんなでつくる笑顔の㊦」は、竜王町に関わる人みんなが大切にしたらいいんじゃない。だから、プランでなくてもいい。 ・食宝ハンティング、フォトコンテスト、ドラゴンバス、ドラゴンサポート、ドラゴンファミリー、ランキングブック、ドラゴンパーク、ドラゴンアピール（第1～3希望までの中でメンバーを決める） ・食宝ハンティング：4人 ・フォトコンテスト：4人 ・ドラゴンバス：4人 ・ドラゴンサポート：5人 ・ドラゴンファミリー：4人 ・ランキングブック：4人 ・ドラゴンパーク：4人 ・ドラゴンアピール：4人
---	---	---

<資料> 本時の板書



〈道徳〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>道徳「プロフェッショナルから学ぶ③」</p>	<p>◎今日は、国語科「プロフェッショナルたち」の学習の番外編・第3弾として学習していきます。最後となる今日のめあても「プロフェッショナルの生き方から、今の自分を見つめ直すヒントを見つけよう」です。</p> <p>○では、早速、資料を視聴しよう。</p> <p>○この資料に登場するスキージャンパーは、どんな思いで仕事を続けているのでしょうか。</p> <p>○この人が、仕事の中で大切にしていることを聞いて、どう思いますか。</p> <p>◎これから、プランを考え、パソコンで資料を作っていきます。パソコンは、今までにも何度も取り組んできたけど、改めて、丁寧に、今までやってきたことを続けていこう。そして、今までの6年生がやってきていないことだからこそ、みんなが「6年生のレジェンド」になろう。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：指示する P：見る、書く</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：説明する P：聞く</p>	<p>・今回は、誰やる。 ・今日で最後か。</p> <p>〈映像の視聴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキージャンパーの人で、名前は葛西紀明さん ・43才の今でも現役で世界で戦っている。 ・「レジェンド」と呼ばれている。 ・オリンピックに7回目も出場している。 ・小さいころは無心でとべていた。けど、結果が出なくなると、練習でも笑顔がなくなってきた。 ・新しいコーチとの出会いで、笑顔を取り戻す。 ・妹がソチオリンピック後に亡くなる。 ・プロフェッショナルとは、「変化を恐れず、無心で集中できる」人である。 ・生死と向き合う仕事だからこそ、その瞬間に対応していけないといけない。 ・自分の能力や努力、気持ちを強く持てることが大事。 ・毎日、コツコツと練習を続けていくからこそ、自分の力になる。 ・継続することはやっぱり大切なんや。 <p>【3学期にみんなで決めたキャッチフレーズの意味とも合う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コツコツ続けるって、中学校、そして、これから先も大事なことやね。 ・これが、最後（のパソコンの授業）やしな。 ・レジェンドね。いいね。やってやろう。 	

<資料> NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～ スキージャンパー・葛西紀明」(2016年2月8日放送)

〈総合的な学習の時間〉

次数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>【第二次】 プラン作成 ①下書き</p>	<p>◎今日は、前回のデザインプランをもとにより詳しく作っていきます。学習のめあては、「プラン名を作り、中身を考えよう」です。</p> <p>○では、はじめに見本として、先生のモデルプランを発表します。おプラン名は、「みんなで創ろう チーム竜王の㊦」です。</p> <p>○今発表したけど、発表の流れ・フォーマットは次のようにします。</p> <p>「1 プラン作成の理由」 「2 ヒントにしたまちづくりプロジェクト」 「3 実際のプランについて」 (1) だれが主体となって取り組むのか (2) どんな目的で取り組むのか (3) どのような方法で取り組むのか 「4 プランの効果」 「5 役場の人へのメッセージ」</p> <p>○それでは、チームごとにわかれて、コミュニティデザインプランシートにまずはプラン名を考え、次に具体的な中身をグループごとに考えよう。</p> <p>○プラン名を発表して、発表の順番を決めよう。</p> <p>○では、次からはチームごとに、パソコンで資料を作っていこう。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：説明する P：見る、 考える</p> <p>T：説明する P：聞く、 考える</p> <p>T：指示する P：話し合う、 活動する</p> <p>T：説明する P：発表する、 話し合う</p> <p>T：説明する P：聞く</p>	<p>・これから作るんやな。 ・どうやって、作ったらいいんやろ。</p> <p>・この前にプランに選ばなかったやつを使ってるやん。 ・なんか、発表の流れがありそう。 ・いろいろなプロジェクトの視点を入れてるなあ。 ・こんな流れで発表するんやね。 ・そしたら、わかれて作ろう。</p> <p>・プラン名は、言葉のリズムがいいやつがよいよね。聞いただけで何をするかわかるようなやつ。 ・「来る人を増やす」のも大事やけど、消滅を防ぐために何をするかやね。町の良さをどう伝えるかや。 ・やっぱり、今、あるものを使わないとあかんよな。バスとか特産物とか。 ・新しく何かを作ると、お金かかるやん。 ・先生。プラン名は、コミュニティデザインプランシートと変えてもいいやんな。 ・先生、バスの次にパークがいい。パークに行くのに、バスを使いたいし、その方が流れができるやん。</p> <p>【発表の順番】</p> <p>・1 クイズで学んで食宝ゲット ドラゴン探検隊 ・2 ドラゴン 「ホッと」 サポート ・3 みんなで泊まろう 遊ぼう 楽しもう ドラゴンファミリー ・4 おいしい 楽しい 魅力がぎゅっしり ドラゴンランキングブック ・5 Let's Go ドラゴンバス ・6 自然で学ぼう！ 遊ぼう！ 楽しもう！ ドラゴンパーク ・7 みんなおいでよ！ ドラゴンアピール大作戦 ・8 竜王町の魅力を発信 ドラゴンフォト五輪</p> <p>・パソコンで作るのは、得意や。 ・今までに、学習参観の発表とか、なぞなぞ作り、自分史作りでも、やってたよな。</p>	

<資料> 教師のモデルプラン「みんなで創ろう チーム竜王の㊦」

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第二次】 プラン作成 ②③ パソコンで の資料作り	<p>◎今日から、パソコンを使って資料を作っていきます。学習のめあては、「2つのポイントを考えてプランを作る」です。</p> <p>○では、2つのポイントを紹介します。あくまで「竜王町の消滅を防ぐために」、そして、「今ある地域資源を使うために」です。</p> <p>○そしたら、これからの流れを説明します。まず、2月21日（火）からパソコンでの資料作りを始めます。2月23日（木）からは原稿作り、2月27日（月）は、リハーサルをします。そして、2月28日（火）にプラン発表会となります。</p> <p>○では、チームごとに話し合いながら、パソコンで資料を作っていく。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：説明する P：聞く、 考える</p> <p>T：説明する P：聞く、 考える</p> <p>T：指示する P：話し合う、 活動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やっとパソコンで作れるな。 ・前に作ったコミュニティデザインプランシートを使うんやね。 ・町に来てもらうだけでなく、町の人口を増やしていかないといけないからやろ。 ・バスとか、特産物をうまく使うことね。 ・1週間しかないやん。 ・結構、がんばらなあかんやん。 ・見通しを持ってしないと。 <p>【このレイアウト、どう思う。→それでいいんちゃう。みやすいやん。】</p> <p>【なあ、この文字の形、どうしたらいいと思う。→こっちのフォントにしよう。その方が強調できる。】</p>	

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第二次】 プラン作成 ④⑤ 原稿作り	<p>◎パソコンでの資料作りが終わったので、今日の学習のめあては、「相手を納得させる発表原稿を作ろう」です。</p> <p>○今までしてきた資料作りは、どちらかというと、「見て納得させる」ことを中心でした。そのために、してきたことは何だろう。今までやってきたことを思い出してみよう。</p> <p>○これらは全チームで統一していきたいと思います。そして、今日からする「原稿作り」は、「聞いて納得させる」ことを中心に考えます。そのために、大切なことは何だろう。</p> <p>○つまり、「相手意識」を持って原稿を作っていくことが大切です。そしたら、これからの流れを説明しチームごとに話し合いながら、原稿を作っていく。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：発問する P：考える、 答える</p> <p>T：指示する P：話し合う、 活動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やっとパソコンで作れるな。 ・前に作ったコミュニティデザインプランシートを使うんやね。 ・文章、イラストのレイアウト。 ・アニメーションのつけ方。 ・色、字体、字の大きさを考える。 ・短い言葉で書く。 ・ていねいな言葉を使う。 ・声とかジェスチャーかな。 ・短い言葉で書いている分、具体的に言う。 ・そして、言いたいことを言い切るように。 <p>【大事なことをいう時は、ジェスチャーをつけた方がいいな。その方が印象に残る。】</p> <p>【始めのスライドと次のスライドとをつなぐ文章が難しい。】</p>	

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第三次】 プラン発表 リハーサル ①	<p>◎明日がとうとう発表会です。今日は、リハーサルを行います。学習のめあては、改めて「相手を納得させる発表の仕方を考えよう」です。</p> <p>○では、再度、次のポイントをチームごとに確認してみよう。</p> <p>①スライドの文章と文章との間をつなぐ。</p> <p>②スライドの言葉を具体的に説明する。</p> <p>③言葉に合うジェスチャーを考える。</p> <p>④話し方の強弱、間をとる。</p> <p>○では、チームごとにスクリーンに映しながらリハーサルをしましょう。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：説明する P：聞く、 考える</p> <p>T：指示する P：話し合う、 活動する</p>	<p>・これが難しいんやね。 ・役場の人に発表するもんね。 ・子どもでもできるところを見せたいな。</p> <p>【今までのパソコンの学習のまとめって感じやね。】 【間をとるって、卒業式の呼びかけみたい。】</p> <p>【最後に、みんなを盛り上げよう。→それいいな。】 【発表の流れを説明するときに、指を使ってみよか。→それぐらいにしとこー。】</p>	

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
【第三次】 プラン発表 本番②③	<p>◎きょうは、プラン発表会本番です。自分たちが考えてきたプランを発表しましょう。今日の学習のめあては、「自分たちのプランを発表しよう」です。</p> <p>○では、今日の発表会に来てくれた人を紹介します。</p> <p>①役場の西村さんと同じ政策推進課の方（2人）です。</p> <p>②竜王町の教育長です。</p> <p>③竜王町の学校教育課の人です。</p> <p>④有線放送の人です。</p> <p>⑤役場の広報の人です。</p> <p>○では、チームごとに順番に発表していきましょう。</p> <p>○最後に、発表会の感想を聞いてみたいと思います。西村さん、教育町、よろしく願います。</p>	<p>T：説明する、 P：聞く</p> <p>T：説明する P：聞く</p> <p>T：指示する P：発表する</p> <p>T：説明する P：聞く</p>	<p>・ドキドキするな。 ・ついに、この日が来たな。 ・やるしかないわ。</p> <p>・すげー、いっぱい来たやん。 ・有線の人、マイクもってる。 ・ちょっときんちょうするな。</p> <p>【発表の順番】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 クイズで学んで食宝ゲット ドラゴン探検隊 ・2 ドラゴン 「ホッと」 サポート ・3 みんなで泊まろう 遊ぼう 楽しもう ドラゴンファミリー ・4 おいしい 楽しい 魅力がぎゅっしり ドラゴンランキングブック ・5 Let's Go ドラゴンバス ・6 自然で学ぼう！ 遊ぼう！ 楽しもう！ ドラゴンパーク ・7 みんなおいでよ！ ドラゴンアピール大作戦 ・8 竜王町の魅力を発信 ドラゴンフォト五輪 <p>【西村さんからクオリティが高いって言われたな。】 【教育町も、真剣に考えてくれてうれいって話してたな。】 【今日の発表会って、広報にのったりするのかな。】</p>	

〈学活〉

回数・段階	教師の指示・発問	教授・学習活動	学習内容	資料
<p>竜王町の 一員として</p>	<p>○今回、取り組んだ学習が新聞にのりましたね。自分たちが取り組んできたことが紹介されてどうやった。</p> <p>◎今日の学習のめあては、「今回の学びを振り返って書こう」です。</p> <p>○改めて学習を通して思ったことは何ですか。</p> <p>○なるほどね、多分、先生が今回の学習でしたことは、まさに、「社会」を勉強することでした。社会の中には、いろいろな人がいるし、そのような人たちと話し、関わることで自分たちの「社会」が作っていける。それが、「町の一員」としてできることかな。もしかすると、他にも、自分たちがやってきたことが紹介されるかもしれないね。</p> <p>◇では、最後に今回の学びを書こう。「これからの竜王町は、誰がどのように作っていけばいいの</p>	<p>T：説明する、 発問する</p> <p>P：考える、 答える</p> <p>T：説明する</p> <p>P：聞く</p> <p>T：発問する</p> <p>P：考える、 答える</p> <p>T：説明する</p> <p>P：聞く</p> <p>T：発問する</p> <p>P：考える、 書く</p>	<p>・うれしい。すごいことやんな。</p> <p>・ぼくら、結構、がんばったよな。</p> <p>・ほんまにレジェンドになったわ。</p> <p>【発表に対して】</p> <p>・子どもでも、(町のために) できたよな。きんちょうもしたけど、あれだけの人が発表を聞きに来てくれるとは思わなかった。</p> <p>・西村さんも教育長も、「クオリティが高い」と発表の中身をほめてくれたし、それはうれしかった。</p> <p>【教師に対して】</p> <p>・先生って本気よね。正直、はじめはめんどくさかったけど、なぜ、自分たちにそこまでしてくれるのか、何か意味がわかったわ。</p> <p>・自分たちのために先生が本気になってたってことやる。先生この2年間、プレゼン、何度もしてたし。</p> <p>【自分たちの活動・行事に対して】</p> <p>・なんか、僕らの学習って、今回もやけど、一年間、グループで話し合う学習が多かったなあ。誰か一人でも参加しないといい結果が残せないというか。</p> <p>【そやな～。】</p> <p>・でも、一人かけても、みんなでその穴をうめていくことが「協力」なんだと思った。</p> <p>・卒業式に向けて、すごくよい練習ができたよな。教育長や西村さん以外の役場の方も2人やろ、あと、有線放送の人や役場の広報の人もやで。大勢の人がいても、しっかり発表できたやん。</p> <p>・まあ、そうかも。</p> <p>・難しいことをしてやんやなあ。</p> <p>・自分たちの町は、自分たちで考えていかなあかんってことやる。</p> <p>・紹介されたら、すごいよな。</p> <p>・もっとレジェンドになるんちゃう。</p> <p>【住民同士、住民と行政との協働：行政主導型：3人】</p> <p>・行政が主体になって、竜王町民のためにずっと住んでいたい町づくりをしていけばいい。理由は、町か</p>	

	<p>だろう。」です。</p> <p>○または、自分のグループ以外で、コミュニティプランとして、一番、実現する可能性があるのは、どのプランか、3つ選んでみよう。</p>	<p>T：発問する P：考える、書く</p>	<p>らどんどん人が出ていくと消滅してしまうから。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政の人が住民の安心やつながりを創るために、イベントの参加など協力していけばいい。理由はやっぱり、行政の人が中心じゃないと、竜王町が動いていくのが難しいから行政の人中心で、事故を防ぐ、あいさつなど交流を創っていき、イベント参加でも交流が深まっていくから。 <p>【住民同士、住民と行政との協働：行政・住民協力型：9人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民と行政が協力していけばいい。理由は、行政だけでは竜王町を守っていけないし、協力することによって、消滅を防ぐきっかけを作れると思う。 住民と行政の人が交流する場を作り、魅力を発信していけばいい。交流する場を作ることで、今まで以上にみんなと関われ、もっと親しみをもてる。魅力を高めていくことで、他地域の人にも竜王町の魅力を知ってもらえることができるから。 役場の人だけではなく、竜王町の住民も、みんなが竜王町のいいところを伝えていかなければいけない。なぜなら、役場の人だけでは、伝えるのに時間がかかるから。 <p>【住民同士、住民と行政との協働：住民主導型：20人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民が竜王町の消滅を防ぐために、行政などの企画に積極的に参加する。理由は、人同士の輪を作ったりするのは住民だから。 住民が竜王町のために、意見を言い合い、アンケートなどに積極的に取り組んでいく。そして、竜王町のいいところを他の県の人にも広めていけばいい。 住民が自分たちの交流を深めるために、アピールをしていけばいい。理由は交流やアピールが少ないから、自分たちで交流を深めていけばいいから。 住民が、もっと住民同士が関われることをしたい。理由は、人口が減ってきているので、自分たちが考えたプランで家族同士、住民同士の関わりが増えると思うから。 <p>【その他：1人】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが未来のために、協力していけばいい。理由は、みんなが協力しないと何も始まらないから。 <p>(票が多かったもの：全99票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ドラゴンバス：17票 ドラゴン探検隊：10票 ドラゴンフォト五輪：18票 ドラゴンサポート：12票 ドラゴンファミリー：6票 ドラゴンパーク：8票 ドラゴンアピール：9票 ドラゴンランキングブック：19票 <p>(一位の票が多かったプランとその理由：全33票)</p> <p>【ドラゴンバス：11票】</p>
--	--	----------------------------	---

			<p>…今、町にあるバスを使えるから、子どもやお年寄りも使えるから、ツアーのようにできるから。</p> <p>【ドラゴンランキングブック：10票】</p> <p>…観光客のために作るといい、ランキングヒントにして竜王町に来る人がいるかも、住民の意見を載せて作りやすいから。</p> <p>【ドラゴンフォト五輪：5票】</p> <p>…みんなが参加できる、有名な場所で写真をとって魅力を発信できるから。</p> <p>【ドラゴン探検隊：3票】</p> <p>…アウトレットなどに来る町外からの観光客も参加できるから、行政の人がオススメするものを知らせることができるから。</p> <p>【ドラゴンサポート：2票】</p> <p>…みんながこまっていることだし、直してもらえると安心するから。</p> <p>【ドラゴンパーク：2票】</p> <p>…町外からの人も遊びに来そうだから。パーク内に、竜王町の名物の名前をつけることができるから。</p> <p>【ドラゴンアピール、ドラゴンファミリー：0票】</p>
--	--	--	---

<資料>

本学習に取り組んだ子どもたちの様子については、以下の資料でも取り上げていただいた。なお、子どもたちが作ったパソコン資料については、竜王町のホームページ「竜王きらりんニュース」に掲載されているので、そちらも参考にしてほしい。

- ①「竜王西小6年生 町の活性化案、行政に提案」『滋賀報知新聞』2017年3月14日
- ②「RYUOH NEXT STAGE 未来を作る次世代の取り組み「もっと好きと言える町」をめざして小学生が考える未来の竜王町」『広報りゅうおう4月号』竜王町未来創造課, 2017年4月1日 http://www.town.ryuoh.shiga.jp/kouhou/04gatsu/1704_08_09.pdf
- ③竜王町 HP『りゅうおうきらりんニュース vol.82「もっと好きと言える町」をめざして～小学生が考える未来の竜王町』
<http://www.town.ryuoh.shiga.jp/kirarin/82/82.html> (2017年3月31日)